

時代をよむ

ジャーナリスト 田原 総一郎
たはら そういちろう

- *偉い人は信用できない
- *政治に緊張感がない
- *空気を破れない日本人
- *10年先を見据えた転換を
- *ITによる新産業革命
- *軍部独走が招いた破滅
- *自分の生きがいを見つめる
- *安倍首相にビジョンはない
- *地方の活性化が活路に
- *想像力を育てる教育を



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は初めてでございますが、田原総一郎さんにおいていただきました。皆さんよくご存じだと思いますが、1934年のお生まれでございます。彦根のご出身で、働きながら早稲田大学文学部に通われ、その後、東京12チャンネルにご入社になり、ドキュメンタリー番組等の製作に携わり、ATGの映画等の監督もされました。退社後はフリーのジャーナリストとしてテレビ番組等の司会をされています。そのあたりは皆さんよくご存じのとおりでございます。

今日は「時代をよむ」というテーマで幅広くお話をいただけたと思います。それでは、田原先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

偉い人は信用できない

田原 今、ご紹介いただきました田原総一郎です。よろしく申し上げます。

講演の前に少しお話したいのは、私は戦争を知っている最後の世代です。小学校5年生の夏休みに天皇の玉音放送がありました。当時の小学校というのは、5年生から軍事教練が始まる。それから、本格的な社会科学の授業が始まる。5年生になって私は軍事教練もしました。そして、1学期に先生たちが——大東亜戦争という戦争は世界の侵略国であるアメリカとイギリスを打ち破り、アメリカやイギリスやフランスやオランダによって植民地にされているアジアの国々を独立させ、解放させるための正義の戦争だと。